熱帯医学　第21巻　第4号 167－169頁，1979年12月

タカサゴキララマダニの人体寄生例

山崎豊彦
長崎逓信病院皮膚泌尿器科

小田力
長崎大学医学部医動物学教室

北岡茂男
農林省家畜衛生試験場

A Case of Human Infestation with a Female of *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844 (Acarina: Ixodidae)

Toyohiko YAMASAKI (Division of Dermatology and Urinology, Nagasaki Teishin Hospital, Nagasaki), Tsutomu ODA (Department of Medical Zoology, Nagasaki University School of Medicine, Nagasaki) Shigeo KITAOKA (First Research Division, National Institute of Animal Health, Tsukuba, Ibaraki 305)

Abstract: A female of *Amblyomma testudinarium* Koch, was removed with a razor from the hind side of a femur of a 63-year-old woman who lived in Nagasaki City. The tick body, excluding the capitulum, was 2.1 cm in length and 1.8 cm in width. The tick laid 1456 eggs after having been removed from the femur.

Tropical Medicine, 21(4), 167－169, December, 1979

はじめに

タカサゴキララマダニ*Amblyomma testudinarium* Koch, 1844 は東南アジアから，日本にかけて広く分布し，ウマ，ウシ，ブタ，イヌなどの家畜のほかに，鳥類，爬虫類など宿主を選ぶ範囲が広く，時としてヒトにも寄生するといわれている（影井，木畑，1974；上村，近藤，1977；Kawashima et al., 1960；北岡，鈴木，1974；木船，引削，1972；田中ほか，1960；長花，松尾，1962；Yamaguchi et al., 1971；山本ほか，1976）．我々も本種ダニの人体寄生例に遭遇したので，長崎県でのはじめての記録として報告する．

症例

患者：63才，主婦，初診：昭和53年7月5日．家族歴及び既往歴：ともに特記すべきことなし．

現病歴：6月3日より2日間別府に旅行した．6月10日頃より右大腿後側にイボのようなものがあるのに気付き，再々手で触れていた．その後徐々に大きくなったので，スピル膏を貼付したが取れず，さらに大きくなった．7月4日夜，イボようの物体をカミソリの刃で切除した折に，これが動き出し驚いて翌朝，某外科に来院し，著者の1人である山崎が診察した．

初診時の症状：ダニの咬着部と思われる切除部は

長崎大学医学部医動物学教室業績第243号
Received for puclicaion, Decemcer 15, 1979

淡黄色ベラグ状の，化膿したような状態であった．その周囲は手挙大の充血発赤を呈した．

治療及び経過：切除部を入念にみたが，ダニの口器らしき部分は発見されなかったので，清拭創傷処置したところ，4，5日で治癒した．血液一般検査では，白血球数7,700，赤血球数349万，好酸球の増加もみられず，貧血もなかった．

摘出されたダニ：寄生していたダニの口器はすでにとれており，体色は淡黄色で，大きさは胴長2.1cm，胴幅1.8cmであった．本ダニは背甲板のエナメル斑の模様や気門の形態等から著者の1人である北岡によりタカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844の雌成虫と同定された．

産卵状況と生存期間：7月4日に摘出されたダニを腰高シャーレに入れて25°Cで保存しておいたところ，7月31日には産卵した．したがって，このダニの吸血して産卵するまでの期間は27日以上とかなり長いと推測される．次に産卵開始後，毎日産卵数を数えた（第1図）．産卵数は産卵開始してから1～3日後に非常に多く，その後徐々に減少し，9日めには産卵せず，10日め（8月9日）に死亡した．したがって，このダニは切除後36日間生存したことになる．



Fig. 1. Daily changes in number of eggs laid by a fed female of *Amblyomma testudinarium* at 25°C.

考　　察

わが国におけるタカサゴキララマダニの人体寄生例については7例の報告がある（影井，木畑，1974；上村，近藤，1977；Kawashima et al., 1960；木船，弓削，1972；田中ら，1960；長花，松尾，1962；山本ら，1976）．これらのダニは雌と若虫で，雄の寄生例はまだ報告されていない．これは雌と若虫は長時間かかって吸血するが，雄は短時間に吸血して寄主より離れやすいためであろうと思われる．

本種ダニの産卵数についてはあまり報告されていない．今回の観察では，産卵数は1456個であったが，30,000個以上も産卵された例（北岡，未発表）と比べればごく少ない．このような変異差に及ぼす第一の要因は吸血量の多少であるが，本個体は口下片が切除された際に破損し，また未受精であるために，不十分な数しか産卵していないものと考えられる．

摘出されたダニは切除後36日間と長期間生存することがわかった．同様のことは田中ほか（1960）及び長花，松尾（1962）によっても報告されている．

上に述べた既報の本種ダニの寄生を受けた患者のうち，1人は婦人でその感染経路は明らかではないが，のこり6人は農林業に従事する男子と男子学生で，どの場合も山野に入ってダニの咬着を受けたと考えられている．今回の患者は老令の婦人で山野をあるく習慣もなく，イヌ，ネコ及びトリなどのペットも飼っていないが，ダニの寄生に気付く数日前に別府に旅行しており，この間に野外でダニの寄生を受けた可能性が高いと推測される．

謝　　辞

本稿を御校閲下さった長崎大学医学部医動物学教室，和田義人教授に心から御礼申し上げる．

摘　　要

長崎市内に在住している63才の婦人の右大腿部に寄生していたダニを切除したところ，このダニはタカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844の雌であることがわかった．この雌ダニは切除後27日めから8日間にわたり，合計1456個の卵を生んで死亡した．

文　　献

1) 影井　昇，木畑美知江 (1974)：タカサゴキララマダニ (*Amblyomma testudinarium* Koch, 1844)の人体寄生例．公衆衛生院研究報告，23(3)，178－181.

2) 上村　清，近藤力王至 (1977)：タカサゴキララマダニなど3種マダニの人体寄生例について．衛生動物．28(2)，249－250.

3) Kawashima, K., Kamo, H., & Miyazaki, I. (1960) : A case of human infestation with a hard tick *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844 in Japan (Acarina : Ixodidae). Kyushu J. Med. Sci., 11, 77－80.

4) 北岡茂男，鈴木　博 (1974)：南西諸島における医動物学的研究．2．奄美大島南部のマダニと季節的消長．衛生動物．25(1)，21－25.

5) 木船悌嗣，弓削静彦 (1972)：タカサゴキララマダニの人体寄生例追加．久留米医学雑誌．34(11)，1240－1242.

6) 田中英雄，佐藤健一，杉田幸男，岡部純一 (1960)：人肛門部に寄生せるマダニについて．大阪市大医誌，9(3)：69－70.

7) 長花　操，松尾喜久男 (1962)：ヒト寄生のマダニ2種について，医学と生物学，62(5)：119－121.

8) Yamaguchi, N., Tipton, V. J., Keegan, H. L., & Toshioka, S. (1971) : Ticks of Japan, Korea, and the Rykyu Islands. Brigham Young Univ. Sci. Bull., Biol. Ser., vol. XV(1), 25－30.

9) 山本　進，高岡宏行，鮫島　潤 (1976)：タカサゴキララマダニの人体寄生例について．衛生動物．27(3)，304.